

登録コード	A3Y50200	開講年度	2026				
授業科目	高冷地域動物生産生態学演習					担当教員	今井 裕理子 他
英文授業名	Field Science Seminar for highland Agriculture						阿久津 雅子
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室	野辺山ステーション			授業形態	演習	遠隔授業科目	
						備考	教員内線番号：2555、食料生産システム科学コース2年生を優先。他コース、他学部、他大学の学生は希望理由欄から選抜。
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 5 Aカリ						
	【2025年度以降カリキュラム対象】2.【専門性】 農学分野の専門的な学識と技術が身についている。				農学や畜産学に関する広い知識・技術を修得している。		
	【2025年度以降カリキュラム対象】3.【情報分析・発信力】論理的な思考力のもと、多様な情報を収集・分析・活用できるとともに、効果的に伝えることができる。				農学や畜産学に関する広い知識・技術を修得している。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース						
(4)授業の概要	本演習では、高冷地域における農業、環境および動物の関わり合いや現状、課題について様々な視点から知り、考えることを目的とします。また、家畜の生産環境の整備、高冷地野菜の栽培管理および収穫技術、畜産施設見学、作物残渣の飼料利用などを通して、高冷地域における畜産と耕畜連携を学びます。						
(5)授業計画	8月24日（月）～8月27日（木） 1日目：バス移動、講義（高冷地農業・畜産業、牧場経営）、農業現場・施設の見学 2日目：高冷地野菜（キャベツ）の収穫・管理、バス移動 3日目：畜産関連施設見学、飼料作物・牧草の管理 4日目：乳製品加工、レポート作成、アンケート回答						
(6)自主学習の指針	実習で扱う作物、家畜、加工方法等に関連する書籍を読んでもらうことを勧めます。						
(7)成績評価の基準	()全演習プログラムに参加するとともに、()作業に積極的に参加し、()実際の動物生産現場について理解を深められた場合「卓越している」(秀)とする。()に関して体調不良等の理由により一部の演習に参加できなかった場合「かなり上にある」(優)、複数の演習に参加できなかった場合「やや上にある」(良)、より複数の演習に参加できなかった場合「水準にある」(可)とする。						
(8)事前事後学習の内容	事前に高冷地域の動物生産に関連する管理、作業等を調べる。 事後学習として、実際の作業経験から理解が深まったこと、新たに興味を持った点、作業等に関して疑問等をまとめ、報告する。						
(9)テストやレポートの予定	最終日にレポート作成を行います。						
(10)成績評価の方法	演習中の技術習得、達成度合、レポートによる総合評価						
(11)質問、相談への対応および連絡先	質問は適宜受け付けます。 A F C 構内ステーション農場研究棟 今井裕理子 TEL:0265-77-1610、e-mail:yuriko_imai@shinshu-u.ac.jp						
(12)履修上の注意	・受講可能人数を超過した場合、志望理由書などで選抜を行って人数調整します。 ・本演習は原則として食料生産システム科学コースの学生が履修登録して下さい。 ・高冷地域動物演習と植物演習で人数の偏りがある場合は変更をお願いする可能性があります。 ・高冷地域植物生産生態学演習、高冷地域生物生産生態学演習との重複履修は認めません。 ・傷害保険に加入していることを履修条件とする。 ・演習期間中の食事費等を現地で徴収する。 ・集合日時：演習初日9:00に信州大学農学部(南箕輪村)に集合する。 ・持ち物：医療保険証、作業着（長袖・長ズボン）、帽子、作業手袋、長靴、日焼け止め、筆記用具、水筒、宿泊に必要な身の回り品（洗面具、タオル、着替え、ゴミ袋）、常備薬等 ・高冷地は夏季でも朝晩は冷えるため、防寒対策を忘れないようにして下さい。 ・天候と実習対象作物の生育状況などにより、予定を変更することがあります。						
【教科書】	特になし						
【参考書】	特になし						